

# そよかぜだより

第81号  
発行 2009.2.15  
毎月1回発行  
NPO法人  
障害者団体連絡会  
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/  
連絡先  
ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
エール 570-1233  
資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

## 古紙回収・山のような在庫を抱えて業者は困窮 日本のリサイクルシステムが危ない

いま私たちが回収した古紙を引き取ってもらっている(株)宮崎では、古紙の置き場がなくなるほどの満杯状態になっています。大きな倉庫だけでは場所が足りず、外の駐車場にまでうず高く積み重ねています。日本の製紙会社が大幅な原産態勢に入り、需要が冷え込んだためです。もしこの状態が長引くと、単価の下落だけに止まらず、一時的に引き取りがストップされる事態になりかねません。そんなことになったら、私たちも回収ができなくなり非常事態に陥ります。

いた会社の社長さんが、実に深刻な顔つきで「大変なことになった。いまは値段の付けようがない。アルミ自体が大暴落して、引き取ってもいくらお払いできるかわからない。売れたら連絡をするから、支払いはそれまで待つてほしい。申し訳ない、こんなことは初めての経験だ、非常事態だ」と頭を抱え込んでいました。テレビのニュースで報じていましたが、盛り場でアルミ缶を拾い集めて生活費にしていたホームレスの人が、唯一の収入源が絶たれて困り果てているということでした。

古紙、アルミ、くず鉄などのリサイクル品は全てこんな状態ですが、もっとも深刻なのはペットボトルのリサイクルだそうです。ペットボトルは、いままでほとんどが中国向けでした。中国の引き合いがぱたりと止まった現状では行き場がなくなりました。中国頼みで回収していたために国内ではペットボトルをリサイクルするシステムが空洞化して、日本ではリサイクルできないのだそうです。このような状態をリサイクルの専門家は「中国依存症」といっています。依存症のつげが回ってきたのが、いまの状態だそうです。このためわが国のリサイクルシステムはやせ細ってしまったので、急な立ち上げができません。

これは、国の政策が、リサイクルは市場原理にまかせる方針だったので、国内に安定したシステムが育たなかったのです。持続可能なシステムを国内につくることが緊急課題になっています。古紙の場合は、依存症の度合いがペットボトルほど強く

ご協力ありがとうございました。 1月の募金 31,928円  
(順不同) 平成20年4月～21年1月の合計 568,190円

高橋 典子	様	帯刀 進	様	井上 誠一	様
加部 妙子	様	臼井 道代	様	田中 明子	様
エイ・アイ	様	北野 浩美	様	森田 勝	様
山下 暉枝	様	清水 賢	様	大野 元雄	様
宇津木 牧夫	様	清水 知子	様	村野 理子	様
濱野 岬	様	袴田 実	様	山田 隆章	様
古澤 奈保美	様	天満 喜代子	様	橋本 亜紀子	様
山崎 六雄	様	渡辺 時三	様	平岡 知子	様
国本 昭治	様	大内 たま子	様	関谷 達夫	様
川崎 利男	様	竹内 照夫	様	関谷 和子	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	関谷 孝子	様
角野 克子	様	角野 満壽子	様	田中 稔	様
吉野 満里子	様	斉藤 忠	様	下田 コウ	様
土屋 三枝子	様	関村 理	様	山影 幸子	様
小沢 達子	様	関村 英希	様	本間 正彦	様
永岡 智恵子	様	平野 嘉子	様	柴田 佳代子	様
阿部 郁子	様	アサロンカワノ	様	大野 素子	様
渡辺 四郎	様	関谷 博	様	増田 常夫	様
野崎 功市	様	桜沢 喜作	様	アバンバンディックス	様

匿名様(7,200円)

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市五ノ神2-6-7  
042-578-0855

くれよん1月の売上げ  
922,340円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

はないので、「細々でも動いているから、引き取りのストップはなんとか回避したい」と(株)宮崎の社員はいつています。それを頼りに、単価の下落は量の拡大でカバーする覚悟で回収を続けます。ご協力をお願いします。

## NPO法人 そよかぜの

# 《資源回収》に

ご協力をお願いします  
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

1月は39,020tでした。金額は810,473円となりました。この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

3月は第3日曜日15日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

「ダウン症でも、生まれたことには必ず意味がある」

## 妻子殺した被告への裁判長の言葉

### さまざまな反響 対立する二つの感想

2月5日、朝日新聞の朝刊に次のような記事が掲載されました。

『ダウン症の長男(当時27)の将来を悲観した妻(同53)に頼まれ、2人を殺害した夫(57)に対する判決が4日、さいたま地裁であった。死刑を求めた夫に裁判所が出した答えは、懲役7年(求刑同10年)。若園敦雄裁判長は「長男がダウン症を持って生まれ、あなたが生き残ったことにも意味がある」と論じた。長男正大さんに対する殺人と、妻きみ衣さんに対する承諾殺人の罪に問われたのは、福島忠被告。福島被告は公判で「体調が悪化して長男を介護できないと自分を責める妻に『3人で死のう』と言われ、決意した」と語った。検察側の冒頭陳述や福島被告によると、長男の知能は2、3歳程度。生後間もなく医師

被告は就寝中の妻と長男の首などを果物ナイフで刺した。自らも風呂場で手首を20カ所以上傷つけたが、死にきれずに110番通報した。

「なぜ自分だけ残ってしまったのか。死刑にして欲しい」。そう公判で訴えた福島被告は判決後、「残された人生を有意義に生きて欲しい」と裁判長に言われ、「はい」と一礼して法廷を去った』

だが、介護は過酷だった。食事やトイレなども付ききりで妻が世話したが、自分の便を口に運ぶ長男を抱きしめ、泣いたこともある。成人すると長男は暴れたり、妻の髪の毛を抜いたりもした。妻が頭痛やぜんそくなどの不良を訴えたのは約2年前。40年勤めた会社を定年退職した福島被告も介護を手伝った。しかし妻の体調はますます悪化し「3人で逝こう」と心中を望むようになった。

08年8月、妻は果物ナイフを手に「私と長男を刺して」と懇願。9月6日夜には「遺書を書いた」と福島被告に伝えた。その言葉に、説得を続けていた被告の心も折れた。翌10日午前1時ごろ、福島

泣きたいのは私だよと思いがら抱きしめました。

そんな子どもがいるのに私は10月に、手首はカッターナイフでおなかには包丁で自殺を図りました。人間て案外簡単には死ねない、かなり血だらけになったけど死ねなかった。精神が崩壊してパニックでやっしまいました。

毎日毎日、辛いです、悲しいです。でも働かなきゃいけない。朝、7時半に家を出て、保育園に子どもを預けて、帰宅も7時半。家に着くなりご飯の支度、子どもをお風呂に、洗濯物をとりこんで干して、子どもの添い寝、戦争です。

唯一、通勤時間だけが一人になれる。彼への愛情は二つの感情が揺れ動き憎しみになったり、未練になったり。すべてを壊してしまおうか？自分の気持ちを断ち切るために。

私は、あれからずっと自分に問いかけています。子どもが寝たあと、ゆっくり新聞に目を通したら感慨深い記事がありました。妻子を殺した夫の判決だった。長男が重いダウン症で……。裁判

長は「長男がダウン症で生ま

れてきたことには必ず意味がある」「あなたが生き残ったことにも意味がある」。そう論じた。深く、重みのある言葉に息が詰まった。こんな私でもきつと意味があつて生まれてきたのだろうか。そして今、意味があるから生きていくのかな。こんな失敗した人生でもかな。その意味を、自分が生きてここにいる意味を考えて見つけてみたい』

裁判長の言葉に励まされて前向きになった女性の感想です。

#### 人生は無意味だ

『この若園という裁判長は、障害者や被告に向かつて「意味がある」などと、どんだけ「上からの目線」？あんたは神か。朝日新聞も大きく見出しにして、あたかも名裁判長が賜った至言、といった扱いだ。

妻子を殺した人間は、いかなる事情があつたにせよ、犯罪者だ。「悪人正機説」の親鸞気取りで「残された人生を有意義に」などと口走る馬鹿はよくいる。許せないのはダウン症を持って生まれてきた人間を、犯罪者と同列に扱っ

ていることだ。若園裁判長にしてみれば、犯罪者も障害者も同じなのだろう。自分が「意味がある」と声をかけてやらなければならない生きていくこともままならない存在なのだろう。自らのご宣託が大々的に取り上げられて、若園裁判長は、ご満悦のことだろう。裁判所というのは、裁判長が自分酔う、カラオケボックスなのだろうか。

もちろん、障害者として生まれてきたことに意味はない。被告が生き残ったことにも意味はない。「人生は無意味」なのだ』

この感想は、前の女性のそれに完全に対立する見解です。裁判長の言葉を真正面から切り捨てています。いまの世相を考えると、人生は無意味だと冷やかに言い切る人たちが社会の中には少なからずいることを、私たちは肝に銘じておかなければなりません。私たちが、福祉や障害者への理解を社会に訴えるとき、愛や慈悲の言葉を素直に受け止めない人が、たとえ一部でも確かにいることを忘れないようにしたいと思います。